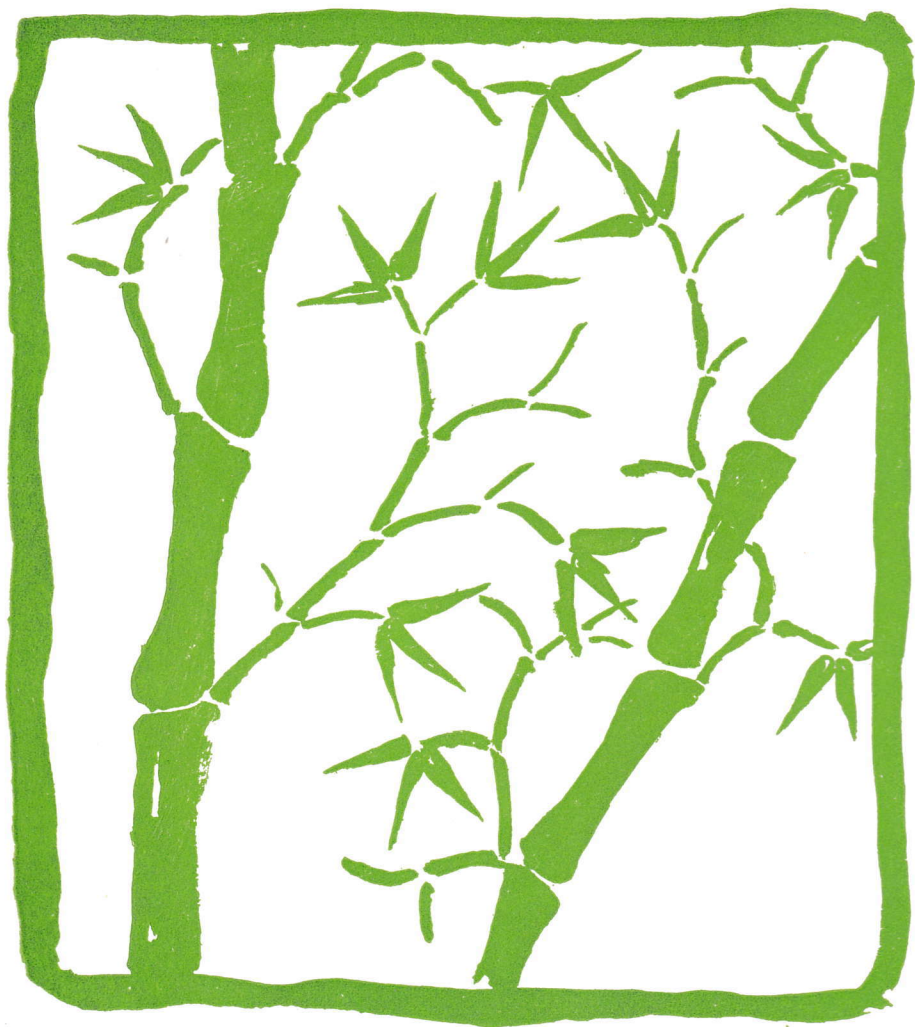


紫 筍



文京高枝同窓会報 No.2



写真説明 1) 講堂兼体育館 2) 校舎 3) 図書館兼小体育館 4, 5) 大塚中学校校舎
6) プール予定地 7) 中央児童相談所 8) 大塚中校庭
9) 文京高校運動場

紫 筍

同窓会報第二号目次

校舎校地の問題について……………奥田行信(2)
一年を顧みて……………静谷晴夫(4)
同窓会を親睦の場に……………古谷澄子(5)

十 字 路

芹沢栄・田崎幾太郎・阿部桂太郎・
橋高信・菅野二郎・松本利雄・榎本
幸三郎・浜松一男・照屋至傑・長谷川
次郎・高橋忠正・佐々木益男・黒岩
健一・新倉宏一・錦織亮・浅利富子
山内英士・村岡 弘・早川 勲

私の学園

菊池達長……………(14)
山川喜久男……………(15)
岡 喜康……………(16)
静谷栄夫……………(17)
若林百合子……………(18)
竹内道雄……………(18)
西村英一……………(19)
海老原嘉雄……………(20)
かわだひろし……………(21)
佐藤幹夫……………(22)
近藤喜代太郎……………(23)
ふかせたかひろ……………(24)
殿塚猷一……………(25)
矢島 稔……………(25)
佐々木 卓……………(27)
細谷義昭……………(27)

東京駅にて……………(15)
あの頃……………(15)
身辺雑感……………(16)
昔のこと……………(17)
級の結婚……………(17)
或日の会話……………(18)
試験の神頼み……………(18)
驕慢……………(19)
雑感……………(20)
雑記……………(21)
利尻島……………(22)
山にゆせて……………(23)
蒔れた種……………(24)
虫屋誕生……………(25)
ヤキキヤバ見学記……………(27)
文京生見たま……………(27)

歩いてかけて見た記……………皆葉 賢
ブル建設決定……………(29)
消息不明者・住所変更……………(34)
会計報告……………(35)
卒業生進路状況……………(36)

校舎校地の問題について

奥田 行信



同窓生の諸君にとっては、将来校舎校地の問題は相当関心の深い点があるかと思つたので忘れないうちに頭に残っている点を書いてみたから何らかの参考にしてもらいたい。

古い卒業生はよく知っている事だが、現在の校門を入ると、大きな枝振りのよい色々な名木を配して立派に作られた前庭があつて、その突当りに明治三十年かに建てられたという二階建木造(約七五〇坪)の本館が実にどしりと建ち、その両翼に渡り廊下でつながれた二棟の特別教室(夫々約六〇坪)、更に本館中央のアーチ式通り抜け玄関正面に十間ばかり離れてお寺の御堂を改造した講堂、その右手に、これ又、渡り廊下で本館と講堂につながれている管理関係の建物(約六〇坪)が中庭を背景として、仲々落着きよく建てられていた。これ等が本校当初の仮校舎であつた。

勿論、昭和十八年には竣工される予定で三〇〇〇坪からの理想的校舎も着工はされたが、当時の事情で僅かに五分の一位が六分通り出来ただけで、昭和二十年の三月と四月の戦災で何も彼も灰燼にきした。全く手のつけようがないので、今の中央児童相談所の二つの焼ビルを生徒(現会長静谷君達の学年が中心)と先生方の手で応急改造して、六教室と二つの小室を作つて終戦迄頑張つたその当時の苦勞を思うと、今は全く極楽のような感じがする。

終戦と同時に八月一杯、野口校長と汗だくで方々の軍の施設を借り入れようと、もがいて、遠くは朝霞の陸軍士官学校の校舎迄交渉に出かけたが徒勞にきし、結局、戸田橋の河床で農耕に専念するより途がなかつた。

やつとの事で十月から関口台町小学校の六教室を借りて、一、二年を収容したものの将来の見通しは全くつかなくかつた。当時、都の教育局は戦災校舎は全く放りばなしで何も考えては呉れなかつたし、豊島区は勿論、小石川区当局も将来の問題についてはどうにも考えてもらえないので本郷区長(現在の井形文京区長)と野口校長との間で、将来学校が本郷

区に腰を据えるなら、校舎の問題は区の方で面倒をみようと言う口約束が出来て、昭和二十一年二月末、全校を挙げて、元町小学校に移転したわけである。それからの苦勞は最近の卒業生以外は大体知っている通りであるが昭和二十四年の三月になって、以前の口約束は実現されない事がはっきりしたので、焼跡に復帰するよう努力して来た。その間、P・T・Aの協力によって二十四年九月には九教室建築の内定はあったものの、十一月にはそれが取消になったので大問題となったが都から総務部長、施設課長が態々来校して、P・T・Aに来年度は全校が焼跡に復帰出来るよう必ず善処するとの確約をして呉れたので、やっと納まった。処が二十五年には鉄筋校舎の問題が出て来て、又九教室で我慢しなければならぬ事になり、その年の八月に現在の講堂兼体育館がP・T・Aで着工され、翌年一月に竣工したわけである。今迄、二千万円以上をかけて、立派なものが作られてあるが、当時P・T・Aの力だけで講堂兼体育館を作ったのは、本校が嚆矢で、如何にP・T・Aが協力的であったかを如実に示している。その後二十六年度、二十七年年度の予算で教室関係(特別教室を含む)だけは竣工し、更にP・T・Aの力で小体育館、研究室、図書室のある三階建鉄筋を昨年十一月完成してもらったが実は普通教室すら四教室不足し、管理関係の施設は全く出来ていないので、モデルスクールとしての機能を充分生かす事が出来ず運営上も困っている現状である。校地の問題については初代川島校長の努力で約九〇〇〇坪の現校地が決定され、更に校門前の両側には科学館と温室を作る構想のもとに約三〇〇〇坪の土地が、P・T・Aの力で購入されているので、恐らく広さでは旧都内高校中随一だと思いが、そのために又、色々と悩みもある。戦災で建物は何もなくなったために学校には全く連絡なしに、都議会で勝手に都立聾学校の敷地にしたらしいので、これを当時の豊島区長(須藤氏)の力でとりもどしたとか、の因念がつけられ、昭和二十三年の十二月には新制中学校を建てるから半分よこせと区長から直接談判があったが学校の方にも、色々言い分があるので、断然お断りして来た。処が二十四年二月には教育庁を通して話があり、暫定的に中学校建築を承認しなければならなくなったので、将来の事を考え、建築位置、区域等明示して承認したわけである。その後何等の連絡なしに、承認した位置以外に二棟増築されたので二十六年五月には、区長を相手として徹底的に争う腹でP・T・Aと色々相談したのだが、当時の川崎教育長が将来は必ず善処するからとの確約を与え、尚モデルスクールの規格で、鉄筋校舎が着工されたばかりの時でもあったので、陳情だけで我慢して来た。以来、大塚中学校の問題では、度々、P・T・Aの協力のもとに当局に接渉して、やっと来年度かに大塚中学校は移転することにはなったが、古い校舎が残るので、折角広い校地を持ちながら、未だそう簡単には解決つきそうにないので、今、頭を痛めている現状である。

一年を顧みて

同窓会長 静谷 晴夫

一年、光陰矢の如しとは云うが、時の経つのは全く早いものである。昨年十月、会報を発行し、総会を開いたのがついこの間の事のように思えたのに、あれから已に三百余日の月日が逝って了っている。本年三月、新しい会則にしたがっての同窓会の運営を終えてやれ、肩の荷を下すつもりでいたら、もう一年と云う事でひきうけさせられて了った。今度こそは自分より若い人達にバトンを渡すつもりでいたのに……。併し、引受けた以上はやっと歩き始めた赤子がどうやら歩けるところにまでしようと思う。幸い、幹事の面々も昨年と殆んど同じ、それに今春卒業されたファイトのある諸君も加って手足には事欠かぬ感じである。昨年同様、赤坂、小島の先輩、細谷、皆葉の両君がよく動いて下さって、自分はその報告を受けて会を代表するだけで良さそうである。そして、ここに会報第二号が発行出来る事となった。会報第二号！一銭の予算もないこの事業が果して実現出来るだろうか。どう見積っても三万の金がかかる、併し、総会の開けない本年にあつては、どうしても実現しなければならぬ事業ではある。忙しい中を集めては編集にあたつていて呉れる若い諸君の姿をみてみると、どうしても云う気持になり、亦、出せると云う気持もしてくる。

昨年十月、何年か振りで総会を開いた。集った会員の数は五百余、会の進行の方は運営側の不手際で開会がおくれたりして決してスムーズではなかったが、幹部の諸君の努力と、学校側の協力とでまあく

であつた。そして、重点をおいた後の各クラス会、同期会の方は、諸先生を中心に和氣あい／＼久し振りの顔合せで話はずんだ様だつた。併し、こちらで資金調達のためと思つていたビール、ジュースは全然さばけず、取らぬ狸の皮算用とはなつて了つた。六時から開いたダンスパーティーも、同窓会主催としては始めてのものなのでどうかと思つていたが、菊地君始め世話役の御苦労と、校長先生の有難い勧誘とで、満員の盛況ではあつた。会報の発行、総会開催、ダンスパーティーと終つてホッとすると、予想以上の出費なのに少々慌て、了つた。最少限にみつもつて赤字は一万円余、これは困つたと、それ迄の経過を反省してみると、意外なところに異常な出費があるのに驚いた。則ち、学生アルバイトである。例年の事やら総会の時には幹事と云う者は走り回つていて自分のクラス会にも出席出来ないのが例なので、一つ試みにも思つて、総用は一切アルバイト諸君にまかせる事にしたのである。そのお蔭で、大部分の幹事はクラス会に出られたが、その代償としての赤字が少しかゝつてきた。もう一つの原因として、入場者を五百とみた事であつた。最初、集会者は最低五百とふんだのに、いつの間にか五百人分の会費が入るものとしての立案となつて了つていた。成程、集会者は五百ではあつたが、会費の入つたのは三百余しかなかった。亦、ダンスの方からの収入も案外に少なくなつた。

一期生の期待以上の寄付でどうやら会報を発行し、総会を開いたものの、この赤字には正直弱つて了つた。第一年目で已にこんな赤字を翌年に残すのではと内心、穏かならぬものがあつたのだが、それから会計の活躍は見事であつた。細かい事は知らぬが、とにかく年度末にはちゃんと黒字にして、引継ぎを終えて呉れた。まかせつきりにし

ておいたのではあったが、今更に西岡先輩の御苦勞には頭が下った。
 そして四月、本年度の幹事総会には五十名余、本会が始って以来の
 出席率をみせて幹事諸兄の熱意を示してくれた。そして亦、自分が今
 年一年の運営を引きうけさせられた。もう一年自分自身では時間的に
 余り動けず、何も出来ないだろうが、せめて若い幹事諸君が活動しや
 すい様な環境に少しでも近づけて、今後の発展に役立つ基礎をつくり
 たいと思う。
 (23年卒)

本会報の発行に当り左の方々(二、三期)からご寄付を仰ぎま
 した。紙上厚く御礼申し上げます。

(敬称略・順序不同)

阿部 泉	萱場忠一郎	小林 実
江口辰雄	山本邦彦	細田純生
遠藤正雄	東 繁雄	江戸川達助
猪俣範彰	桜井忠司	山下義智
福沢光雄	森田和浩	石渡昭一
潮田与志夫	横田忠郎	山岸雄一郎
小島義郎	赤坂正雄	木元正二
浜田昭三	阪本英一	若林百合子(五期)

同窓会を親睦の場に

副会長 古谷 澄子

本年度の同窓会の副会長として指名され、不束乍ら一年間お役に立
 たせて頂く事となりました。

蟬の声がいつしか虫の音に変わり、街路樹の銀杏の葉も黄ばみそめる
 頃となりました。本当に月日の流れは早いもので私共が学窓を巣立っ
 てから、もう三年半もたっていました。

ところで、ICBM等と云うものが出来て緊縛した世界情勢下にあ
 る日本の若人、大人として取扱われるようになった私達は、賢明な判
 断力をもって、何事にも責任ある態度で慎重に行動しなければならな
 いと思います。ピンボケの写真のようなほやっとした落着きのないこ
 とでは困るのです。……アメリカの日本か、ソ連の日本か、アジアの
 日本か、……私共若い一人一人がしっかりした自分の意見もち、互
 に手を取り合って行かなければならない時ではないでしょうか。

然し乍ら、学校という規則正しい勉強の場から離脱して一歩前進し
 た時、単調な時の流れを身を感じながら尚も野望を追って各各の道を
 進んで行きます。私共文京高校の同窓会は、ばらばらに奮進するの
 はなく互に手をつないで前進して行く親睦の場としていきたいと思
 います。
 (29年卒)

十字路

大勢の方々のお便りをこの欄に集めました。なつかしい顔ぶれの中に今の昔を偲んでください。

先生と云う教え子

芹 沢 栄

七月八日から一週間、休暇を利用して、東大病院のドック入りをした。入院の晩、「私かわかりますか」と云いながら現われた白衣の医師。それが(文京)三期の尾形君だった。病歴表(?)で見つけて、訪ねてくれたのだ。

立派な成長ぶりだ。うれしかった。同君の話だと、(豊島中)二期、湖山聖道君(文京)一期、小林守君、その他が同病院に関係しているそうだ。電話をかければ、たちまち同窓会が成立しそうであった。それは遠慮したが、コッソリ入ったそんな場所にも友多くありで、心強い思いがした。

ドック入りの結果って?——ガストロ・カメラに映じたところによると、胃に萎縮があるそうだ。しかし、これは——第一心臓はたしかだし、三中時代の鍛練に耐えて来た体でもあり——ちょっとやそつとで、どうのこう

のというものでもないらしい。まだ同窓会報でお目見えする回も重なることだろう。

お願い——同窓会名簿をます／＼整備してもらいたい。記載形式が年度組などでまちまちなのはまずい。たゞ「会社員」では話にならない。豊島二期組などが基準になりそう。住所などもずいぶん古めかしいものが残っている。生きの通った目の通し方をしてくれる人があってほしい。もう一つ。——戦争中疎開して去り、その後本校をなつかしんでいる人たちがいる。なんらかの措置は取れないものか。非常事態に対する非常の措置を。

(旧職員、教育大学)

お便り下さい

田崎 幾太郎

古い卒業生で時々尋ねてきてくれる者がある。その君の話を通して当時卒業した幾人かの君の消息を聞くことは、せまい室の窓から晴れた青空をのぞくような感じがする。もつとこの窓をおしひろげて、もつと身体を乗り出して、あの広い大空全体をながめたい気持ちにかり立てられることがある。そういう気持ちを幾分でも充たしてくるために、この会誌が役立つてくれないだろうか。そんな期待も

あって、会誌の出ることはやはり嬉しい。

私も本校の生活すでにひと昔半、無為無能にして徒らに歲月を送っても、老いの波は遠慮なく押し寄せてくる。しかしまだ十年は大いに元氣を出してがんばるつもりでいる。住居は戦前と同じ、焼跡にささやかな家を建て、垣はつるばらの伸びるにまかせ、庭は雑木の繁るにまかせて暮らしている。ついでの折にでも諸兄のお立寄り下さることを希望します。(在職中)

病癒えて

阿部 桂太郎

私事病氣のため、三年近くの才月を休職し、漸く九月から試験登校を許されて学校に出ています。同窓の諸君が各方面に活躍しているお蔭で、減入りがちな病中の激励は勿論色々御世話になり深く感謝しています。本当に有難うございました。

所で創刊号で紹介しました恋愛、結婚、離婚等々に関する、私の「よろず相談所」は反響を呼んで、なか／＼の盛況でしたが、現在も将来も継続する考えです。遠慮なしにおかけください。本年の元旦第一番の来訪者も、私が口きくをして昨年末結婚したO君夫

妻でした。私が関係したかどうかによらず、既婚の人が私の所に遊びに来る時は、御夫婦そろって、子供さんのある人は子供さんも連れて、にぎ／＼しく来てくれるようお願いしたいものです。

次に文京で学んだくらいの人は、私が将棋に通じていることをよく御存じと思います。今度囲碁を習い始めました。余り弱いせいか相手に困っています。我と思わん方は一局御指南を、自信のない方は対戦をお願いします。

現在の文京生は私が休みだしてから入学したので、誰一人生徒を知らない筈でしたのに、三人の顔なじみを見出しました。気の毒にも私と同病の故をもって一年おくれた人達でした。同窓の中でも現在病床に呻吟の方もあろうかと思えます。私はこれ等の方に限り無い同情を寄せると共に、一日も早く御元氣になられるよう祈って止みません。また御元氣の方はますます健康に留意し一層の活躍を期望いたします。

さらば、三千名になん／＼とする親愛なる同窓生諸君、御健闘の程を。(三三、九、二五)(在職中)

愚かしい親爺に

橋 高信

駈け出しの白面書生を快く迎えてくれた諸君を最初として、幾年月かたつ間に随分と多数の諸君を送り出す身となつてしまいましたが、相変らず元氣でやっています。年月は争われぬもので氣は若いつもりでも身体の方は左程に言う事をきいてくれません。終戦直後は同僚諸先生の移動が激しく、したがって先生の手が不足して、あれこれとお手伝いの積りでいろんな科目を教えたりしましたが、今は新参科目世界史を専業としています。倫理専攻の私が歴史の教師におちつくことは妙な因縁だと思つていますが、こうなつたいきさつは芹沢先生がよくお知りです。豊島中最後、文京一期の諸君がでまを飛ばして騒いだりまして今は可愛くて仕様がないう長女の愚かしい親爺となりました。褒める訳ではないが「品のよかりし旧い諸君を懐しむ」ながら、今は品のよい新校舎に古くて新米な教師ぶりをさらけ出しております。母校を忘れず奮闘して下さい。(在職中)

ずい分に

菅野 二郎

本校に赴任して来てからもう十三年にもなる。今、こうして過去をふりかえりながら、その昔のことを思うと「ずい分にしたものだ」とわれながら驚いてしまう。あのころはまさに青年で、終戦後の教員組合が出来たころには青年部にいられたほどだったのに、私がこんな年をとつたということは、こんなに長くこの学校にお世話になっているということは、それだけ多くの卒業生諸君に接してきたことになるわけで、こんな役立たずの教師がと、自分から恐縮している。しかし、こう年をとつてしまつと、他校でとつてくれないうのですから、まあがまんしていただきたい。多くの有能な先生を中に、私のような漫談屋が一人くらいいてもいいだろうと、自分で納得している。こんなわけで、とにもかくにも元氣です。今年は卒業生の結婚式に四つも出ましたよ。本当におめでたいことで、明日日も卒業生のおめでたい席に出ることになってきます。(在職中)

国体の表彰台に

松 本 利 雄

親愛なる卒業生諸氏の御健康と御多幸を御祈りしつゝ懐しい市立三中豊島中学を去つてから星霜十有一年を経過致しました。それ以来埼玉県立川越高等学校に体育の職を奉じて居ります事を会報にのせて載けますことは不肖私の最も幸栄と致す処で感謝申し上げます。同校には佐藤徳四郎先生と毎日顔を合せて居ります。先生の情熱ある教育は徳さん々と云う愛称で人気があり学生から慕はれて居ります。私は相変らず陸上競技部長として毎日放課後学生と一緒に走り跳び投げることに生きた喜びを湧せスポーツを通し人間育成に消光致して居ります。其の間競争技部は総合で県下四ヶ年連続優勝、全関東二ヶ年連続優勝、冬季になると全国で盛んに行はれます駅伝競走の全国大会(大阪)で第三位と第六位に入賞致しました又全国高校陸上大会には少数ですが十ヶ年連続出場選手を送り五千米と走中跳に優勝六名の入賞者を出して居ります。私自身もスパイクを忘れられず国民体育大会に毎年選手となり又監督として全国各地を廻り大会を満喫し旧所名蹟を見学することも楽

しみの一つです。昭和廿九年北海道の国体には四〇〇リレーに準優勝し表彰台に乗って感激を味はつた事は終生忘れることの出来ない思出です。又去る七月廿日廿一日高知県で全国勤労者大会が開催された折初代校長川島源司先生の経営する高知高校(小学校、中学校併設)を見学させて戴き色々御話や平和の鐘、天体観測器、プール、道場、グラウンド等設備の充実せるには驚きました。スポーツに於ては水泳に木村君昨年相撲に全国優勝本年準優勝、野球も本年甲子園に出场敢闘致しました。進学もこゝ一、二年のうちに東大に相当数送り込んで見せると川島校長は張切つて居りました。文京高校の卒業生諸氏勝利の栄冠目指して心魂を傾注し廿四時間プランを立て、突進して下さい。青空の下に走る私は諸氏を信じて居ります。奮起して下さい。諸氏の御健康と御幸福を御祈りしつゝ。(昭和廿二年九月十七日記)(旧職、員埼玉県立川越高校)

ま、じめ、になつた話

榎 本 幸 三

僕は高校、浪人、大学を通じて丸八年も演劇をやつて来た。云わば遊び放題に遊んで学生生活を終つたわけだが終つて見ると驚いた

ことに皆賢氣の会社や地方公務員に就職してしまつた。更に驚くことは最近顔を合せても演劇のエの字も出なくなつてしまひ、もっぱら堅い話しばかり。とう／＼一層ゼミナールでも聞こうじゃないかと云うことになり、三月月に二度の割合で課題を決め話し合うことになつてしまつた。その内容を一寸と御紹介すると、第一回は皆なサラリーをもらう身分になつたのだから「サラリー」でと云うことでは始めた。リカードに始まりヒックス・マーシャル・ピギーに至る賃銀決定理論、最低賃銀制、賃銀格差、労働生産性と賃金、とまるで一流経済学者の座談会の如きだつた。次回で五度目を数えるに至つたが、我ながらまじめになつたのに驚くばかり、もつとも今の所次郎さん族だからかも知れないけれど。

(27年卒)

よろめきつゝも健在

浜 松 一 男

最近、某週刊紙に、定年制をめぐる問題の特集がありました。その記事のカット写真に僕が写っていました。うしろに、もう間もないオッサンを伴つて。

題して、『職場に急ぐ人々』

東京駅の中央口通路を通して、僕が職場に急ぐ？ 本当でしようか？ いつ、どこで、だれが、なぜ撮るのか？ つくづくマスコミはこわいと思いました。

また、僕と定年制との関係？ わびしくも感じました。とたんに年をとりました。

『「よろめき」 つつも健在。』と云えば、最も近況を伝えて妙でしょうか。 (在職中)

市立三中の遺産

照屋 至傑

「国破れて山河あり」という程大きなことでもないが、あのような戦災にあっても、校地は残っていた。全部失ったというが、何か市立三中時代のものが残ってはいないだろうか。正門は昔のまゝで、ただ門札が文京高校に取りかえられているだけがちがっている。市立三中時代の同窓生諸君には想い出の多い正門であろう。予鈴とともに閉められ週番の先生や上級生に注意を与えられ、時には一気合もかけられ「たあの正門は、形は昔のままでも今は予鈴が鳴っても週番も立っていないし扉も開いたままになっている。門を入ると正面に大きな椎の木があった。あの木は戦災で枯木同様になっていたが、いつの間にか芽

をふき出して、今では枝ぶりも段々もとにかえりつゝある。それから、少し東側によった所に銀杏の木があった。あれも椎の木と同じように最近では鬱蒼と茂って夏の日蔭を作るようになった。

玄関に据えられていた大金庫は、戦災にあつて少々いたんではいるが、古い伝統を誇るかのように、今なお表玄関に置かれている。

その他、見れば昔を想い出すようなものが相当残っているのは、やはり、歴史というものはなかなか消えない証拠であろうか。

また、諸君が儀式の度毎にきかされた校訓「至誠一貫」も今なお本校の校訓として後輩の心のよりどころとなっている。

市立三中から豊島中、文京高校と校名と内容には幾多の変遷があったが、その中にあって残るべきものは残っているような感じがするのである。教育の内容が著しく変つて、昔のことは断ち切られたように見えても、良い意味での伝統が物と心を通して作られてきたように思う。 (在職中)

我が家

長谷川次郎

現在の住所は王子駅と板橋駅とのほぼ中

間、石神井川に程近い場所で旧陸軍火薬廠跡に林立している都営住宅。前に幼稚園を控え、脇に小公園あり都内としては静かな環境にある。長女が中学二年、長男は小学四年、思えば年をとったものである。 (在職中)

仕事の生甲斐

高橋 忠正

ホタルの光に送られて以来、約半年。今ではそろばんと札勘に追われる毎日。気持も服装も環境もすべてが百八十度転回してしまつた。その転回があまりに激しいものだったのでその新しい環境に順応するまでかなり苦しいものだった。

夜の夢にまでそろばんの「珠」が浮かんだ。何故前にもっと練習しておかなかったか。

このことを同じ職場の先輩に話した所、いったん職場から離れた以上、仕事のことすべてを忘れろといわれた。あせらなくても三ヶ月もたてば普通に出来るようになる。とは云われても早く一人前の仕事をしたいという気持は、職場から離れても脳裏から飛びたさなかつた。

そのお蔭で今ではひと通り仕事も出来るよ

うになった。

そして毎日／＼が楽しくその仕事に恋愛以上の生きがいを感じるようになった。

毎日お客に接し応待の態度、電話でのしゃべりかたなどすべて新しい未知の世界であったが、接するたびに少しづつ利巧になっていくような気がし、しばし時間のたつのも忘れさせる程、仕事に熱中させた。

学校生活のような集团的楽しみもあった。週一度の業務後のコーラス。歌っているときの気持、すべてを忘れ又明日への活力をみながら生きてくれた。又日曜毎の野球の試合もその一つであった。

しかし面白いことばかりではなかった。電話応待の未熟さから客をおこらせ、次長あてに文句が舞いこんでさん／＼のときもあった。又店頭で客にどなられたこともあった。こうした色々なことが将来のための経験として生かされるだろう。(32年卒)

思い出ずるまゝに

佐々木益男

卒業生に会って、皆立派になっているのに驚きます。先達って第一回生の学年会を母校

で開いた時、多くの第一回生が、車を運転して来ているのを見て、皆立派にやって行っているなと心の中で、うれしい思いが、こみあげて来た。

それ／＼の立場を得て活躍しているらしい。結婚しているものもいたようだし、まだ独りを楽しんでいる向きもあった。

時折、都電の中で、卒業生らしい人に会うが、名前を思い出せないのもあれば、全々名前は知らないが、顔だけ覚えていた時もある。多くは、二回、三回生らしい。

卒業生が、近くに来たからと、あいさつに來てくれることがある。そんな時「先生ですか、変りましたね」というのは少からず、っかりする。

だが、君たちが立派になっただけ、こちらは古ぼけるんだよ。万物流転の真理、諸行無常の哲理、何をか云わんや。

学校を訪ねて、廊下の「焼あとに立つ青年」像を見る度に、学校が焼けて了った当時のことを思い出す。そして、何だかんだといふながら、世の中がよくなって来ていることを考える。

諸君も、時々思い出すでしょう。「豊島が丘の辺、神明の森に」と高らかに歌った、あの少年の頃を。そして、いつも、元気に、まめ／＼しく働いておられた、奥田先生の「いすか」というあの口ぐせを。

その奥田先生も六十で校長をやめるといふ都の方針だと、もうすぐです。開校以来、苦勞を、学校とともにされた、先生を、しばしば訪問して、慰めてあげたらどうでしょうか。(旧職員、豊島区立 高田中学校長)

犬馬の勞

黒岩 健一

就職と結婚に、犬馬の勞をとるのが、たのしみになりました。

血圧を気にしながら、それでも、口はまだ運者で、時々ホラも出ます。

みなさんの近況おしらせください。

(在職中)

イロンナ事

新倉 宏一

文京を卒業して四年になります。文京時代から今日に至るまで、オシバイを続けて来ました。早稲田に入ってから何度も縁を切りかれましたが、悪縁と言うかクワレ縁と言うか

今だに足が洗えずにいます。もう今では大
学を出るまでやめられないだろうと観念して
います。なにしろ芝居やっていないとタイク
ツなんですヨ。今年卒業してしまいましたが
が、劇研の先輩と早稲田でも一緒に芝居をや
りました。文京から早稲田へは、かなり多く
の人が来ているのですが、最近では学内でメッ
タに会わなくなりました。昨年稲門会が出来
た時、同期生の大石君の話だと、知っている
顔は一人で、あとはまるっきり知らない人ば
かりだったそうです。なにかサビシイ話じゃ
ありませんか。もつとも、僕等と同期と言え
ば三年、四年ですから、ナニカトイそがしい
為かもしれません。

僕の文京に関する思い出らしいものは、演
劇活動くらいなものです。ジャムやバターを
ぬったコップをかじりながら、徹夜したり終
車で帰った頃の事以外は、とりたてゝなつか
しく感じる事はありません。なにかそこに母
校に対する気持の深みのない事が感じられま
す。これも現代の高校生活の現状で、何とも
致し方ないと言えはそれまでかもしれません
が……。

間もなく前期の試験が始まりますが、これ
から卒論、就職と、メンドクサイ事に追つか

けられます。同窓生の皆さん、いそがしくて
もタマには文京へ顔を出しましょうや。

(29年卒)

昔は昔、今は今

錦 織 亮

文京の皆様と別れて、四年半の歳月が瞬く
間に流れ、いろ／＼の記憶が私の脳裏から薄
れようとしている。あの当時の高校生であつ
た皆様も、定めし豊かな経験を積まれて、若
い生命力の発展の影に、過去の記憶は其れと
して、恋々とばかりはして居られない事と思
います。其れで宜しいのですし、又其れが一
面では望ましいのです。私にも今、秋の夜、
この稿を草するにあたって、聊か、記憶の糸
を辿らなければ、実感が迫って来ない。

教師には、其の人の持つ力の限界と云う問
題が、極めて切実である。多数の子弟をあづ
かって誠に辱づかしくも又申訳のない次第で
ある。而も困った事には、うっかりすると、
この深刻な事実には不感症になる。教師になる
位だから焼は始めから廻っているとは如何に
しても考えたくない。

文京の卒業生諸兄と時折御話する機会があ
る。母校に対していただく感情が特異なもの

あって、他の学校で経験した所、又私自身が
旧制中学校に対して抱く所のものと、聊か異
っているようである。つまり、母校を心の故
郷として仰げないと言うのである。当時在任
して居た私は責任を逃れる事は出来ない。慚
愧に耐えないものがある。私は伏して御詫び
しなければならぬ。ですが諸兄。昔は昔。
今は今。多少の誤解は何所にもある。母校を
訪ねて、先生方に御会いになって御覧なさ
い。御互に血の通った人間です。

小生其後も録々として在り、さっぱり業績
もない。多少のあせりも感ぜぬでもないが、
泡沫にも似たはったりの業績だけはやりたく
ない。大学教師の中には案外これが多く、外
紙の特別号の新進文学者の紹介か何かを要領
よく抜粋して、いかにも自分がこれ等の人々
の全作品を読んだかの如き顔をして評論を書
く。良心のある学者は、弟子に材料を提供し
てはったりをさせる事はしない筈である。他
人を押し倒しても地位を得ようとする劇烈な
生存競争の日本の行詰った社会ではあるけれ
ども。私は大学に於ける学風の相違と云う問
題に行き当る。此所にも又教育者の子弟に対
する倫理観、世界観上の責任の問題が根柢に
横たわっている。(九月十五日)(旧職員)

私のお仕事

浅利 富子

学校を卒業した年の四月、百貨店へ入社した。早や四月月日の過つのは早いもので有る。私は婦人服誂えの販売を担当し、少しでも早く完全な販売をする為に本店の京都へ約半年実習に行った。始めてのお勤め、実地の顧客への(アプローチ)接近、サービスへの徹底、「どこよりも良い品をどこよりも安く、どこよりも親切に」をモットーに、色々教育を受けた。婦人服は洋装服飾関係の内一番基礎をなすもので有り、今日では着物にとつてかわつて、平常着から夜会服にいたる迄、その使用範囲は広く、生活の中迄浸透しています。一般的な販売技術を成功させるに、三を紹介致します。

お客様の立場に立つて心からご満足いただける様に良き相談相手となる。例えば生地をおすゝめする場合、鏡を利用してお客様の肩等に掛けてごらんに入れる。又お客様の様子から、まずスタイル・デザインの好みを察知する。それから、たとえ販売員が、その日に不快な出来事があつても、顔にはほゞえみを持ち、良き相談相手となる事が一

番大切ではないかと思ひます。

販売員としての仕事は単に品物を売るのみならず、お客様の御住所や採寸表をメモしておき次回から御便宜をはかると共に、種々の催しや売出し等、ご案内状を差上げると云う積極的な心構えが必要です。それと共に日頃から高度の洋裁の知識とセンスを養い、より豊かな教養を身につけてお客様に信頼される販売員になり、大丸ファッショングルームをより向上させる為、たゆまぬ努力を続けております。(29年卒)

身辺雑記

山内 英士

紺碧に澄みわたった秋空にたな引く雲や木の間を漏れる燈火の色にも初秋のさわやかさを感じるようになりました。毎年今頃になると色々夏の思い出が懐しく浮んで来るものです。今年の夏は北アルプス燕岳の燕山荘に設けられた燕岳診療所の一員として約一週間山荘の小じんまりした一室(屋根裏部屋)で、お山の気分を満喫することが出来ました。丁度今年の夏は天候も変化が多く私の滞在中にも初日から晴天、曇天、霧、雨、雷雨と一通り揃つてやつて来てくれましたので診療時間外も

退屈せずに小窓から空を見上げたり見下したり寝ながらにして楽しむ等、又一風変わった角度から山を楽しむ事が出来ました。山の雲の変化、此れはいつもは見上げる物を見下す所に面白味と又珍らしさが有るのですが、早朝の遙か下方に続く雲海が日の出と共に音もなく生き物の様に動き始め山腹をはい登つて来る様子はなにか荘厳な感じを与えられます。

本来の仕事も本年は登山者が多いために忙しく、遠出のため朝早く立つ人々に三時半頃から起され夜は夜で十一時過ぎ迄も病人が出る仕末。お蔭で朝寝坊の私にも御来光を拝めた様子が、高山で深夜の月を眺める機会が与えられた様な次第です。見る物総べて珍らしいことばかりでした。或る夕方突然の豪雨の中で一団の登山者に会いましたが、雨が上から降らずに下から吹き上げる為、簡単な雨具では用をなさず、ずぶ濡れの愛目を見ている人が多勢いました。私の滞在中にも転落二名、病人六十名以上も出ています。我々の同窓会中にも山に憧れる人も大勢居られる事と思ひますが細心の準備と注意をされることを心から望みたいと思ひます。帰途はアルプス銀座を通り上高地へ出ましたが上高地―島々間も道路が悪く土砂崩れのため交通が止まり事故が起

らないのが不思議に思われた位です。今後交通機関が楽になれば良いのですが、今の調子では楽しみも半減と云う所ですね。(28年卒)

アンデスの彼方に

村岡 弘

母校を出てから二年半、小生の夢は今、大きく中南米にとんでいます。

アンデス山脈の雄々しくも狂大な連峰のかがずく、そして又涯てしなく広がっているパンパ(大草原)、ソンプレロという帽子をかぶって羊を追っているガウチョ(牧童)、強烈な太陽の下、情熱的なラテン・リズムに踊り狂う土人。全てが小生にとっては未知の世界であり、又それだけに素晴らしい魅力をもって小生に迫ってきます。

近代文明が詰まる所、人類の滅亡を促進していく方向に進んでいって行くかどうかはさておくと、あまりにも人間的な、それだけに又、あまりにも情熱的な中南米の世界に僕は限らない郷愁の念を覚えるのです。

現代の日本が政治的にも、経済的にも、そして又文化的にも、ジャーナリティックな表現をかりれば、曲り角にきている(或いはそれは袋小路かも知れませんが)状態にある

なら、僕達はずっと、広い視野に立って、内外に対処しなければならぬでしょう。

この面に於いて僕の語学力がその機能性を充分に發揮する事を期待しているし、又その希望なくしては辞書にとらめっこしている時の多い小生の生活が何ら意味のないものとなってしまふ。現在の小生の努力が、必ずや近き将来に於いて、日本のため、世界のため、人類全体のため、多くの貢献をなす事によって実を結ぶ確信なくしては、現在の小生にとって生き甲斐のある一日一日を過す事は到底でき得ません。“Be Ambitious!”、まさに至言といわざるを得ない。(30年卒)

未だに学生生活を

早川 勲

早いもので、本郷元町の文京の校舎を出て七年になる。戦時中の大塚での混乱した中学生活も、今はもう一昔前の懐しい語り草となった。大学での結構忙しい日々、うっかりしている間に、いつの間にか焼跡に新しい、立派な文京高校が誕生していた。併し、想いの豊島の杜は姿を消し、嘗ての広い敷地の半分には、見慣れぬ建物が立ち、子供達が群り遊ぶ姿を見る時、今昔の感を強くせざるを得ない。今更の如く、時の移り変りを痛感させられる。それにしても、未だに、のんびりと学生生活を楽しんでいる小生の事など、も早や、同期の諸氏も御存知あるまい。これから先、インターンの生活が残され、更に医局の下積みとなって、みっちり実地の経験をつんで、どうやら一人前になる迄、後何年かかるか……いくら日本人の寿命が延びたとはいえ、まず人生の半分が、修業のために費される事になる。とはいえ、自分の選んだ道となれば、修業も亦愉しである。幸い、大学では、先輩の小林守兄(昭23卒)が一緒に、色々お助けを頂いている。又同期の尾形悦邦君も、目下大学院在学中、鉄門野球部の監督兼選手としても大活躍している。

新しい立派な校舎は出来ても、未だに、文京生の気持はとんと上らぬ様子。矢張り心寂しい気がする。戦時中の豊島中の先生方の張り切り方は異常なものだったが、今の文京には、まるで活気が感じられない様に思う。学校も年をとった所為かもしれない。外に出て初めて、文京の良さ、悪さが判って来た様に思う。小生は、益々学生生活を満喫する心算。同窓諸氏の御健闘を祈る。又、文京高校の発展も大いに期待したい。(25年卒)

私の学園

高知学園々長 川島源司

皆さんお元気でしょう。私も六十を過ぎること五年、老骨にむちうって学園教育に人生最後の御奉公を致して居ります。私の学園は元の城東高等学校ですが本年三月新築校舎が一応出来上ったので同時に校名を高知学園と改め幼稚、小学、中学、高校を併設してこゝに一貫教育を実現すべく努力致して居ります。

終戦後日本の教育は十余年を経過致しましたが未だに国情の違う米國式が濃厚過ぎ（勿論その長所は充分とるべきですが）真の日本の教育としては相当深慮すべき場面が多いではないでしょうか。どこ迄も日本の長所はこれを伸ばし同時に他國の長所は容赦なく取り入れなければならぬことはいづの世の中でも同様です。



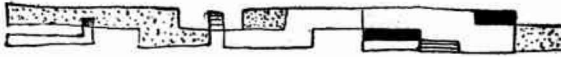
写真説明 上から人工衛星観測・川島先生の近影・高知学園全景

今後の日本の教育は社会道徳の向上という大切な点もありますが教授の点から眺めますと(1)進学にしても就職にしても世界一の競争の猛烈な日本では学科の程度を現在より一段と高める必要があると思います。数学の如き小学校だけで一ケ年は下って居ります。(2)数理科を基盤とした科学教育をより高めこれに徹することは日本が第一工業立国でなければならぬことから明瞭な問題で(3)十年をまたずに交通機関の変化から世界の距離が急速に短縮されることを考へると世界語である英語を重視し今迄の高校までの英語が大学受験的であったものを正常化する必要があると思います。

以上の意味から私の学園では(1)数学、国漢、英語の時間数を増加し基礎学科の程度を高め中学では数学は普通教科書を使用すると共に代数の初歩から二次式の終りまでを中学で終へ漢文も中学一年から課し(2)英語は小学校一年から正常な入門のもとに課し(3)科学教育に徹するには生徒実験から出発すると共に(4)天文観測用の二十五種の望遠鏡(5)氣象観測用の室内及び露地観測設備(6)地震計等を備へてその徹底を期して居ります。科学教育は自然界に始まって自然界に終りますが自然の研究を三分すると(1)星の世界(望遠鏡観測)(2)地球表面近くの研究(氣象観測)(3)地球内部の研究(地震計観測)に終始する思いますのでこれを設備したのであります。幸にも今秋から始められる人工衛星の世界的研究の一部である高知県班の本部が私の学園に置かれることとなり既に特殊望遠鏡も十台到着し近く緯度表示塔も来ることになって居り屋上に取りつけることとなり特に高知は人工衛星の玄関に当りその観測が重大な意味をもちますので生徒を含む観測隊員は張り切って居ります。終戦後の特に小中学の教育が小さくてよいから人の為めになる人と(26頁につづく)

東京駅にて

菊池達長



未来の陸軍大将、海軍大将を夢みて、身体と大体同じ位のカバンを背負い、校門で副校旗に敬礼したり、寒風吹きすさぶ校庭で、太鼓に合せて上半身裸体の駆足をしていた連中が、どこかにその面影を残しながら長い者は疎開以来十五年ぶり、或は卒業以来約十年と、なつかしい顔が東京駅八重州口改札をうろうろしている。

我々、昭和十八年入学のD組（岡部学級）の一人、牧野信也君が、留学生試験に合格し、八月三十日の夜独逸への出発を見送る為である。

会社員、銀行員、その他色々の職業に分れているが、見送りより昔話にふけている方が多い——といつては牧野君に失礼だが、実際その方が多かった。

幹事役の長島君（早大卒・家業）が、一同に入場券を渡して、ホームへ入る。牧野君を中心にして記念写真を二、三枚とって、最後の握手をしたり、御両親にお祝を申し上げたりしているうちに、発車時刻。ベルが鳴り終ると共に発車。

感慨無量のうちに牧野君を乗せて汽車は消えていった。

それからが大変。久し振りに集ったのだからと一同の意見一致し、ニュー・トーキョービヤホールへ。回想談や消息に話の花が咲いていた。尚、当日のメンバーは、幹事役の長島、井上（小松製作）川岸（専

売公社）高橋清美（東京電力）松本（医術大歯科）秋山（東京成徳中教員）戸口（島津製作）山田（旭自動車）藤沢（日本相互銀行）遠藤敏夫（学士入学、早大土木）坪田（学士入学、早大土木）菊池（二ツ橋印刷）の諸君及びE組から、森岡君（第一銀行）が参加して全部で十二名であった。

又、十月十二日に井上君の世話で、深川の某所に於て同級会を開く事を決定して解散した。当日は前記諸君の他、牧（毎日新聞）伊藤（読売新聞）大野（野村証券）中上（銀座松屋）深沢（プロ写真家）の諸君、その他連絡のついた人々、多数が参加する予定なので盛會が予定される。

今更ながら我々が成人して思い出されるのは、終戦後、不慮の事故で死亡された岡部先生の事で、会合の折にはいつも先生の話が出て、我々の成人した姿を見てもらえぬ事を残念に思っている。又、我々を入学から卒業まで御指導下さった芹沢先生が、現在教育大で御活躍されておられるので何らかの機会に芹沢先生にもお会いしたいものである。牧野君の渡欧に寄せて一部の消息をお知らせする次第である。

（23年卒）

あの頃

山川喜久男

私が初めて「三中」に奉職したのは、創立三年目の年であり、校舎だとか学校の体制ということでは未整備であったが、創生期の動揺も漸く地に着き、輝やかしい理想に向かう発展の意気が、学校の内外に

満ちあふれていた頃であった。それはいまわしい不幸の時期に先立つ頃のことであるが、ひょっこり田舎から出て来、教育の方針などには無関心な私にとってさえ、あの頃のことは一昔前とは言えない程生々しく思い出される。まして創立以来、力と愛の教育に、生徒と苦楽を共にされて来た先生方にとっては、実に感慨深いものがあることと察せられる。

あの頃の毎日、とにかく忙しかった。学科のことも学校当局は仲々熱心だったがどうも私には、教室での授業よりも、朝の体操とか昼食時とか放課後の掃除と言ったことの方が、強く印象に残っている。人一倍瘦っぽちな私には、特に冬の朝など、上半身裸になるのは相当おっくうなことだった。そのうちに文字通り「瘦我慢」を通して、一度もシャツを抜くのを怠らなかつたけれども、前にいる生徒が、変な恰好で下手な体操をやっている私を見て、笑いを嚙殺すようにしているのがわかるのは、苦痛だった。当時の教頭の奥園先生に「最初あなたの裸の姿を見た時には可哀そうに思った位でしたよ」と言われたのも、今は懐しい思い出である。最後の授業が終ると、わき目も振らず、実に手早く掃除をする生徒と共に、重い机を持ち運びなどし、ようやく振鈴が鳴って生徒を帰すまで、何か体も頭も緊張のし続けたように思われた。私の融通の利かなさのためでもあるが、英語の主任をしておられた芹沢さんが、「三中に勤めたということが、体が激職に耐えられるという保証になりますよ」と冗談を言われたことが、実感として同意できたものだった。

終戦後学制が変り、われわれの中学も文京高校として新発足した。それからの生徒諸君は旧制度における理想とは全く別な理想を掲げ、新しい校風を發揚しているようである。それに比べ、あの頃の生徒諸

君が幸福であったかどうか、俄かに断定はできないであろう。けれども私には、あれから終戦の年までの三年間は、私なりに生徒のために打込んだ年であり、私の教師生活中最も張りのある体験を積み得た年月のように思われる。

—旧職員—

身辺雑感

岡 喜 康

『思想でも恋愛でも、行きすぎを伴はない青春は寂しいではないか』ある本の中の右の言葉に、すぐ考えさせられるものがあった。不勉強である自分には、思想上の問題で悩んだこともない。そればかりか、しかとした自分の思想なるものさえ持たない状態である。Vanity の強い自分には、行きすぎた恋愛など出来なかつた。

友達と旅行をするとき、自分は持っている金をすべて持って出かける。思わぬ費用がいるかも知れないから。又帰りのバスに乗り遅れないために、友に途中から引き返すことを進めるのは、いつも自分である。今年の冬、蓼科湖スケートに行ったときも、バンソウ膏を持って行ったので、ありがたがれると同時に笑われもした。待合わせをする時、大抵待つのは自分である。

何故自分には、千円だけ持っていて、帰ってきたときには十円しか残っていなかったという苦当が出来ないのか。何故自分は、一度通って来た道を引き返すのか。バスに乗り遅れたっていいではないか。僕はまだ若い。野宿をしたって、山の中の一軒家に泊めてもらっていいではないか。いや、その方が後になってより楽しい思い出と

なるではないか。

近頃私は思う。「思想でも恋愛でも、行きすぎを伴はない青春は寂しい」と。

ともあれ、自分の青春はあまりにも寂しいものであった。どこからか、何もかも忘れさせるような、情熱的な Love でも起ってこないものであろうか。(卅二年九月十四日) (28年卒)

昔のこゝと

静谷 栄夫

いつの頃かはっきりした所は覚えては居ませんが、たしかに中学生二年か三年の梅雨の季節だったと思います。毎日の雨に外での遊びを奪われた私達が、教室での語らいにもあきて、昼食後の腹ごなしは講堂の天井にのぼり、ハリをつたわってする鬼ごっこでした。誰が初めに登ったのか知りませんが、昔御真影とか云うものが祭ってあった奉安殿の所から太い竹竿を伝って上り反対側の隅の肋木の所から下りることが出来ました。鬼になった者は受付へ行ってからこのどちらかを上り鉄骨の上をあそびてつかまえるのです。戦後三年学校の天井はほこりとくもの巣と方々に張られた電線で満ちていました。その上この天井板はのぼると破れるうすいスレートで出来ていましたので私達は常にケガがない様に用心しながら遊びました。破れたら下に落ちると云う危険がある遊びは適度のスリルがあつて、真に面白いものでした。この面白さが無事に続いていけば、思い出にならなかつたのかも知れませんが、幸か不幸か、とうとう中止を強いられる事件が持

ち上りました。それは或る日の昼休みでした。いつものメンバーが例の如く鬼をきめて天井に上って行きました。私はその時どうしたことか、本を読んでいまして、終つたら行くことになっていました。皆が行つてから十五分にもなつたでしょうか、突然に数人の足音が近ずきました。そして大事がおこつたことを告げました。H君が足をすべらせて天井のスレートを抜いて了つたと云うのです。私はすぐに講堂へとんで行きました。丁度中央のあたりに、砲弾形に屋根がみえていました。下で卓球をしていた人の話では急に頭上にほこりが降つて来て、天井には地下足袋をはいた足がブラ／＼していたそうです。私達は唯ほう然として見上げるばかりでした。何をしてよいかわかりません。上級生等が来ては穴を指さして話しています。そのうちにS先生なども来られました。とにかく私達は何かの手を打たねばならないのです。遊びのリーダー格の者の提案でそろって担任の先生の所へあやまりに行くことにしました。翌日の昼に私共は講堂の横に集まりました。そして職員室へ向つて歩き出したのです。今になって思いますとどうしてあんなに弱虫な男になつて了つたのかわかりませんが、この時私の心には昨日は本を読んでいて、この人達と一緒にいなかつたのだと云う考へが頭をもち上げました。同時に先生に叱られるのがとてもこわくなつて来たのです。私はたまらなくなつて、先生の顔をみるまゝに公園に逃げ出してしまいました。数日後、担任のI先生が当番の生徒と共に天井へ上つて、応急処置をして下さり、又S先生からは朝礼の時に二度と天井には上らぬ様にとの御注意がありました。それ以後私達は鬼ごっこは止めました。子供の事ですからすぐに他の遊びで気がまぎれたのかも知れません。その後の事は何も覚えていないので今頃になつてどうして十年も前のつまらない事を書(34頁へつづく)



級友の結婚に

若林百合子

我家はかかあ天下である!……と云つても人間家族のことではない。私の可愛いマスコット、一つがいの小鳥達のことである。彼等夫婦は、人間の歳で云うなら、にぎび華やかな思春期の頃である。彼の方は、雛にかへった時から人間の手で育てられた為、如何にもお坊ちゃん育ちで、可愛い声でチチチ……と鳴き、誰の手にも乗り、ちよんちよんと小首をかしげる姿は微笑ましい。そして美男である。彼女の方は、野生育ちで気も荒く、鳴き声も鋭く、私以外には馴れないので、すこぶる人気がない。この夫婦はよく食べ、よく嘸り、よく喧嘩するが、大抵は彼の方が負け、御機嫌を取るのには彼の方である。……故に我家はかかあ天下である。……が家庭は人間社会でもすべて、かかあ天下の方が円満だそうである……。勿論私だって将来そうなるかも知れない?

つい最近、我組みつての美男美女である、友成さんと島村さんが目白椿山荘にて華燭の典をあげられた。「青年にして恋愛も出来ぬ様な、又希望もないならば、青年にして青年にあらす云々」……と高校時代から云つていらつした友成さん……。見事にお二人の愛情が実を結んだわけだ。この間も編集会議で、お二人の噂話に華が咲いた。たいていして興味なさそうな下級生……。ちえ! 嫌な奴等だな」と僻む?先輩諸君! 妬くなくである。

私の鳥達のように仲睦ましく、喧嘩して、人生を楽しくお過しにするように、お二人の為に心から乾杯!

苦しみも楽しみもしみじみと味わえば良い。お二人のお祝の饗として。

(28年卒)

或日の会話

竹内道雄

「失礼ですがあなたは文京高校にお勤めですか。」

「はあ、そうです。」

「私は、私の知人の教え子を是非御校に入学させたいと思つていますが、……将来は本人は進学を希望しているのです。」

「はあ、入学の件は、都立ですから、私の一存では何ともできないのですし、最近は一流校の進学率もそれほど芳しいものでもありませんし、まあ校舎設備は少しはましなのですが。」

「いや、私もそうしたこととはよく承知しています。しかしやっぱり入れさせてやりたいんです。」

「そうですね。何か特別に理由でもおありなんでしょうか。何か本校にとりえでも……」

「はあ、私は毎日、先生と御一緒に都電で通つており、いろ／＼の学校の生徒を見ております。私も教師ですから、生徒のことは少しは知つているつもりです。他校の生徒の中における御校の生徒はどこか違って見えるのです。御校の校風というか伝統というか、常日頃の学校生活、先生方のお骨折りが生徒さんたちのしぐさの中に

じみ出ているように思われ、そんなものに私はとても心がひかれるのです。」

「はあ、そうですか、どうも何だか、恐縮に思います。私どもはとも一向に……」

「いや、いやこれは決してお世辞でもなんでもないので。いつか機会を見て私の所見を申し上げたいと思っていました。」

或日の学校の帰り、いつも出勤の都電と一緒に某中学校の先生と私の会話の一節です。何か心の暖まる思いのしたことでした。

(在職中)

試験の神頼み

西村 英一

小学校二年の時の通信簿が、甲三つに乙が七つ位、操行がなんと丙という誠に立派な成績で、母を歎かせたものだが、どうした風の吹き廻しか、小学校卒業の時には、天晴れ首席となり、卒業生総代の栄をかたじけなくした。何となく家の近くの豊島中学校に入学できたのが戦局たけなわの昭和十九年春、十文字高女の講堂で行われた入学式の華麗さにびっくりし、初顔合せした一年B組で、一見して秀才と覚しき同級生達の元気のよさにひきかえて、何が何だか前途に限りない不安を感じたものだった。非常時の中学生生活に調子の合わない内に一学期の中間考査が始まり、無我夢中で通りすぎると、成績は六〇番「上の下」にランクされていたので、初めて中学生生活に一つの目安ができたような気がした。一学期の本考査になると、場慣れしたのか、四三

番に上り、二学期の中間考査では一挙に二七番「上の上」の位に達した。三段飛の累進が目立ったのか、担任の注目するところとなり、激励されるようになった。初見で頭のよさそうに見えた同級生も恐ろしくなった。だん／＼試験勉強の要領もわかってきた。友達は、よく徹夜したとか云っていたが、こっちは、眠いし寒いし電気節減に協力して夜もわりに早く寝ることにしていた。二学末試験では、十番台に入り、待望の「特」になった。三学期の中間考査を受ける頃は、すっかり自信をつけ、自分のペースを楽しんでいた。たゞ、小学校以来の習性で、毎日何気なく神棚を拝んでいたのが、何時の頃からか、試験の日だけは、殊更よく拝むようになった。試験成功の神頼みは、私には何かジンクスみたいになっていた。

その日、何をあわてたものか、試験の祈願を忘れて学校にきてしまった。二時限が図工の試験だった。日頃目をかけて下さった森田先生が出題者だった。白い答案用紙が配られた。踏み台型の屑入れ箱の設計図を書き、更に見取り寸法を記入せよとのたった一問だけが出されたのに全くどぎもを抜かれ、頭の中がいきなりカーツとして、目がくら／＼した。烈しく耳鳴りがする。小学校の卒業式で読んだ答辞のことがしきりに思い出された。不図気がつくくと残り時間が少い。まわりの友達は、皆何やら一心不乱に書いている。こっちは白紙だ。いよ／＼あわてたが、さっぱり答案は書けない。ま／＼、真四角を書いた。途端に終りのベルが鳴った。破り捨てたい衝動をかるうじて抑え、前代未聞の白紙に等しい答案を出した。帰校途中の思いは全くみじめだった。持の上／＼に突入する念願も、遂にやぶれたか、先生に合わせる顔もないと一途に思いつめた。学校がこれ以上になく圧わしいものか思えてきた。途徹もないことを考えたりした。あの答案が、この世か

ら消えてしまうことを神に祈った。

試験休みの一日、午前から空襲だった。何を間違ったのか、B二九が焼夷弾を近い所に落したらしく、風を切る金属音に続いて、鈍い破裂音がひびいた。外に出てみると、黒々と煙が天に沖している。弥次馬に交って火元に向うと、燃えているのは学校だった。茫然と立ちつくした私の心の中では、もっと燃えろ〜と唱えるものがあった。焼跡に登校した私の耳に森田先生の元氣のない声が聞えた。消火に夢中になって大切な図工の答案紙とエンマ帳を運び出すのを忘れてしまったのだそうだ。私は自分の耳を疑った。夢にも忘れないあの答案は、最早ない。燃えてしまったのだ。心中、快哉を叫んだ。天佑神助と、神に深く感謝した。

試験の結果は三番だった。不思議な気がしてならなかった。

— 25年卒 —

驕 慢

海老原嘉雄

その時何故私は五、六年も前に見た或映画の手術室の場面を思い出していたのかわからない。ほんやりと私の視界に映じた映像はモノクロームの単調なトーンに統一され、白衣のうごめきとカチ〜と触れあう金属性の音を遠くの方に感じて居た。

喪失して居た意識を取戻してから二、三日の間は文字通り血を吐く苦しみが続いた。私の胃は流れ込む血を排出する為に激しくもがいた。手も足も全ての感覚は失なわれそれが私の身体はどこにあるのかわからなかった。私はたゞやたらに苦しかった、しかしその苦しさも

ふと襲いかゝる睡魔によってしば〜中斷された、そして其時私は溶暗されてゆく意識の中に虚な死の世界を見出し出して、戦慄した。

この日の朝、私は祖母の急を知らされて雨あがりの道にオートバイを飛ばして居た。今から考えると突然の不幸の知らせと乗り馴れた車に対する過信とが常でない無謀なスピードを出させて居たのである。か、私の車はまだ雨の乾かぬ急坂の中腹でブレーキのきかぬまゝ激しく横転した。全てはこの一瞬で決った。私の頭蓋骨は割れ耳からは水のような血が白いワイシャツを汚してアスファルトに垂らされた。

私にとって一切である決定の瞬間はこうして突然恐しい力をもって外から与えられた。死の事実に直面させられた私の全生命は私に対して生きる事を強く命じた。私は灰色の頭をしつようにもたげてる死の姿と必死に闘った。//いけない俺は生きるのだ。//

この時ほど私は純粹に生きたいと願った事はなかった。しかし同時に死の姿におののきながらも私は自分自身の死顔を想像する事は出来なかった。いや私は死と闘いながらもそれに打勝つ事を当然とする自信をどこかに抱きつづけて居たように思われる。

これは私の若い命がそうさせたのであろうか、やがて危険な時を脱し医師や家人の//よかったりという喜びの言葉を聴きながらも、私の若い命は密かに//あたりまえさ//と驕慢な一人ごとをつづやいているかのようにであった。

— 27年卒 —

雑 感

かわだ ひろし

我々が昭和二十七年四月に入学した時は、未だ現校舎は建設中で、

水道橋の何んとも云えぬ都会にて田舎のあの特殊な香水の臭を身近に、元町小学校に間借り生活だった。

幸にその年の暮に移転し、大塚の新校舎に学ぶことが出来たが、毎年級をvari、友達も大勢出来たが、早大進学を目的に一グループを成し、勉学に、遊びに行を共にし、毎晩図書館で九時迄残業していたものだった。が、然し、その成果はと云えば、徳家氏は早大・一政（経済）へ、水村氏が法大へ、屋根山氏は立大・経済へ、坂本氏は明大・商へ、北川氏は中大へとバラバラに別れてしまい、結局、私と佐藤氏と伊沢氏とは浪人の憂目に会い、最初の試みは失敗した。一浪後私は早大入を果し、現在、BEA（商業英語会）に入会して、何んとか、商英の検定試験位には合格したいと張り切っているが、文京時代に怠ったのが祟り、相当苦勞している。来年は、三年ともなれば、新入生の為にレッスンをまたねばならないのだから、私のレッスンをとつたものはいい災難かも知れん。

卒業後も前記諸氏とは、少ない機会を得ては、飲んだり、麻雀したりで、飲みながら、文京時代の悪戯振りや、地歴時代の想い出話にしばし、時を過している。

大学へ入ってみて、マスプロの為か大教室に二、三百人詰めこんで講義する授業風景に少々、厭げがさし、文京時代の小さな級で先生と和気あい／＼として勉強していたころがなつかしくなる。それに五分授業なので、文京の百分授業になれていた我々には、非常に短く感じ、あつかなかつた。が、今は、それはそれなりに、自己流な大学生を送っている。二年先の就職試験を考えると大学生活も容易ならざるもので、高校時代、早大にあこがれていた程のものでもなく、今はその軽薄な気分を改めて考えなおさねばならなくなった。とにかく、

今の穏やかでない経済社会に入るには相当の気構えと技倆が要る。学内で、多くは地方出身者の多い中で、文京出身の者と一緒に机をならべ、又、一般社会学を学ぶのは、心強いものである。

大学時代の友も大事ではあるが、高校時代の友は、各自の人生にあって又、大いに重要かつ、意義深いものであると思う。

その点では、文京高校と云う立派な学校での様々な想い出は、今後の人生経験に於いても、一番記憶に新しい、印象深い想い出として残るものだと思う。

平凡な大学生活に、別にこれと云った特ダネもなく、思い出すまでに雑感を書いてみた。

—— 30年卒 ——

雑記

佐藤 幹夫

同窓会というけれども、正直のところ、戦争下に当時模範的とされた豊中で四年間を過した私共には、なつかしいという言葉に妙にチグハグなものを感じる。にも抱らず、運悪く母校に勤めているため、何かというとかく駆り出されがちなのは、全くうらめしい次第で、幹事の方々をうらむのでは更々ないしむしろ相済まなく思っているけれども、小生如きでくのほうは、もう私下に願いたいものである。

学校という静かな世界ゆえ、さほど珍しい事件などある筈はないが、敗戦後十余年の間に、やはり色々変化はあった。あのころ、さる学校で、先生の質問に答えられなかった女の子に、隣にいた男の子が

答を教えた。先生早速「それが真の友情か。」と言ったところ、男の子直ちに答えて真の愛情ですと言ったという話があるが、近ごろはもう男女共学もすっかり板についたようである。その反面、最近の生徒に戦争の悲惨を聞かせても、数年前迄の生徒達のようには反応を示さなくなっている。三月九日の大空襲のことも、広島の惨状も、アウシュヴィッツや南京の惨劇も、彼等には遠い昔語りになるのだらう。我々が父母から震災の話を書くように。やはり彼等には戦争のことよりも、ジェームス・ディーンの方に関心が深いようである。大戦は二十年を週期として起るといふ説も、こうした世代の推移に理由がなくなさそうである。閑話休題、些か遡るが、面白い話があるので紹介しよう。先年信州O市で開かれたある研究会に出席していたときのことだが、京都から来た参会者の中に、うら若く美しい女性が一人、我々の眼を惹きつけた。さて、この山あいの町は湖に面していたので、私共は毎日、日中は研究発表や討論に過すと、夕方から三々五々連れだつて、ボートを漕ぎに出たものであった。ところで、かのつゝましくしとやかなH嬢は、未だボートを漕いだ経験がなかった。そこで、毎日他の人達が湖上で楽しんでるのを見て人知れず煩悶した挙句、遂に悲壮な決心を固めた。翌日の朝まだき、こっそり起き出し、まず同室の友人にあてて「私はもう矢も盾もたまらなくなつたのでこれから一人でボートを漕ぎに行つて来るが、実は未だ一回もオールを持った経験がない。ついては、もし七時迄に自分が宿屋に帰つて来なかつた場合は、遭難したものと思つて救ひに来てくれ」と言う意味の遺書を書き認め、それから宿の主人には、これから生れて始めてのボートを漕ぎに行くのだが、もし湖の真中で立往生するようなことがあつても七時になれば必ず友人が助けに来てくれるのだからかまつてくれるな、と

わざ／＼断つて出掛けたのだそうだ。事實は案ずるより生むは易くとか、それに又女性科学者の卵だけあつて、オールの角度やさばき方を、いろ／＼力学的に研究して、とう／＼湖を一周のすえ七時きつかりに意気揚々と宿へ帰つて来たのだが。このH嬢がK大の学生であつた時分、あるとき運悪く大切な試験の日に市電のストにぶつかった。彼女、迷つたすえ、自転車で行く決心をした。所がおしとやかなる彼女は生れてこの方自転車になぞ乗つたことがなかつた。この時の彼女の悲壮な覚悟は察するに難くない。所が、彼女がサドルに坐り、ハンドルをしっかりと握り、思いきりペダルを踏んだが、一体どうしたとかか途端にドサリと横だおしに倒れてしまふ。何べん試みても同じことで、ペダルを踏むやドタリ。不思議に思つて、心を静め落着いて調べたすえ、彼女は遂にその原因をつきとめる事に成功した。ハンドルと一緒にブレーキまで、両手で力一杯にぎりしめていたのである。成程倒れるのも道理なのであつた。さて、斯く苦心惨胆の末、ともかくもその日は計画通り試験を受けて、再び自転車で帰宅したが、あとで調べたら体中すりきずだらけだつたそうである。誠に驚くべき話だが、夏の夜のつれ／＼に彼女自ら語つたのだから間違ひはあるまい。聞き終つた一同、度肝をぬかれて、おとなしやかな彼女のケロリとした顔を、しばしまじ／＼と見くらべた事であつた。——20年卒——

利尻島

近藤喜代太郎

灰色が／＼した藍の海が白いキバをむく北日本海の宗谷岬の西北にわ

すれられたような二つの島がうかぶ。利尻島と礼文島である。この夏北海道のあちこちを旅したわたしは、ふと思立ってこの孤島を訪れたのであった。

寂しい北のはて……利尻島の漁港沓形町でさえ人は杳のういた粗材の建物のほかの建物をみることはすくない。煙突ばかり高くそびえて弱々しい影をなげているのが、この島の冬の生活のきびしさをしのばせているのである。多くの遅しい、けれども、懶な樺太犬がめだつ島でもあった。

利尻島の周囲は七十キロたらず、その真中に美しい利尻富士が、そびえ島全体が一つのコニーデをなす。針葉樹の森はさびしい、わたしは多くの樹海をみたけれどこの死んだような寂漠の森の俯をわすれることはできないであろう……そしてあの姫沼、森がいつか弱々しい北の葦のまばらに茂る汀となり、いつか水面となつてゆく。

稚内から隔日に船便がある。島にはバスもあるが冬は積雪と波浪のため、これらの連絡がとだえ文字どおり部落ごとに孤立するとのことであった。江戸時代ロシアの侵犯から守るため派遣され討死したという会津藩士の墓がそうした部落の一つにある。……産業は水産業につきよう。わたしの行った頃はあの名高い利尻コンブの収穫期にあたり、全島その香りにみちていたことを想起する。この島はしかしむしろ鱈、鱈、ホッケで名高い。一頃は老大な水揚げのため漁夫は札束を南京袋にいくつもいくつも詰めてもっていたとすらいわれる。嘗てのわびしい、そして今もわびしいこの島が「夢の浮島」とよばれているのはこうした訳があったのだ。近海にはソ連の監視船が遊弋しているともいわれた。

哀れげな浪曲や夏おとづれる旅芸人が人々の慰めだという……そう

いえば、その幟があちこちにあっていったようだ。

—— 27年卒 ——



山に寄せて

ふかせたかひろ

僕は山が好きだ。いや、僕ばかりでなく、文京OBの多くの人が、山を愛している事と思う。

白樺の色、唐松の風、屋根上に舞う白雲。山へ一度でも入ったら、誰であろうと、その美しさに魅されてしまう。美しさに魅され、もの知れぬ山の香に酔い、そして、愛する情を持つのだ。

僕が最初に山へ入ったのは、今から六・七年前だった。その頃の山は、静寂として、美しく清らかなものであった。しかし現在の山は、どうだろう、何処もかしこも満員である。紙くずは散らばり、花の香ならぬ尿の香が、山路一面にたゞよい、けばけばしい装いをした××族が、我が者顔で潮歩している。白樺の皮ははがされ、何十年かの難苦を乗り越えて、やっと数メートルに達したはい松が、無慙な姿をみせている。

「今の山はきたない」とよく聞かされるが、それは、こうした環境故であろう。山自体の持つ、神秘的な美しさは、何百年たとうと不変ではなからうか。

夏山の一貫として、富士を訪ずれて来たY君は、はきだす様に語っ

た。富士はやはり遠くからながめるに限る。俺は二度と行かんぞ。考えてみる、何も好きこのんで糞の上に腰掛けに行く事はねえぜ、この頃の山も地に落ちたもんだ。そう思わねえか、F」

至極もつともな話である。富士ばかりではない、何処の山でもこうした珍事は、起るものだ。この文章を読んで、苦笑している人達も一度位は彼と同じ様な経験を持っているのかも知れぬ、経験しないまでも身近に見た事があるろう。

僕は、こうした話を耳にする度に、オトギ話を考える。そして、この珍案を、俗化した山を持つ観光地の有志に与えたくなるのだ。

一例をあげれば、次の様なものだ。数時間の行定を要する山路の要所々に、積石をめぐらした簡易WCを設ける事。もちろん清潔を保つ為に、くみとり屋を雇うのである。これなら、国土美化に役立つばかりでなく、失業対策への助船にもなるまいか、どうせ俗化した所なら都会と同じ公衆便所を設けたところで、不思議はあるまい。むしろこうしたものなら、登山者にうけるかも知れぬ。まだ、珍案はあるが、それは又の機会にゆずる事にしよう。

とんだふんのようにたんにあって終ったが、笑う前に今一度、己れの行動を反省してもらいたいものだ。多少なりとも山のエチケットに反する事をしたおぼえがあるろう。え、無いって？ それほとんだ失礼を申しました。

— 31年卒 —

投稿 歡迎

原稿を募集します。題材は自由です。寄稿次第、適宜次号に掲載いたします。宛先は同窓会編集部。

時 れた 種

殿 塚 猷 一

風の首に秋を感じる今日この頃、ふと高校時代とその友人達の面影が浮んで消えない。

私達は二十七年に入学したが、当時は現校舎が未完成で、文京区の元町小学校に間借をしていた。戦火を受けたその校舎は生々しい傷を見せ、風雨は容赦なく窓から入って来た。いたんだ机と椅子を友にして百分間の授業は相当身にこたえた。その上体育の時間には大塚の体育館へ足を運ばねばならなかった当時は、敗戦後という言葉がその状態を適確に示していたように思う。先生方の御苦痛はさぞかしであつたでしょう。而し幸いにも私達は一年たらずで大塚の新校舎に移転する事になった。それからは良い環境に相まって、良い先生方の教えにより卒業する事が出来たのであった。今では立派な図書室も完備し、申し分ないという所ではあるが、一つ是非注文したい事がある。講堂の建設がそれである。教育上有益であるだけでなく例えば、同窓会をよりファミリーにする為にも相当の効果があるのではないかと考えている。

さてその頃の友人達は今頃どうしているのだろうか。私達は毎年一回位今津先生をお呼びしてクラス会をやっているが出席者も多く、和氣霽々とした中でいろいろ話が出て、結局酩酊境に入ってしまうのであるが、とにかく楽しい一時ではある。職を持っている人の話を聞くのは又格別である。その数は少ないが、学生である私には心強く感じられ

る。同じ学窓に生活した者が社会の一翼となり活動している姿は母校に對する愛着心を一層つよくさせるように思はれる。学生は多い。ほとんど大学一、二又は三年である。大部分が東京の大学に通っているが、中には北海道へ進出した友人もいる。浪人をしてゐる友人もいるが来る三月にはきつと幸が待っているであらう。

かくて七期のD組は文京のホープであるが女性がみられないのはチットさびしい。

—— 30年卒 ——

虫屋誕生

矢 島 稔

秋風は赤トンボを山から平野に送ってくる。あの群をなした赤トンボを今でも静かに見上げられる私はそれが仕事の内であり、あの赤色がビタミンの呈色反応であると知つても尚幸だと感ずる。つまり、遂に動物学の学徒になり得たからだ。所でこれ程までに思いつめた希望のめばえを近頃人に聞かれて、我ながら中学高校時代が如何に重要な意味をもつかが味わえてくる。私のは特別なのだが、入学したのが市立三中。それに豊島中学。卒業は文京高校と、複雑極まるものだ。従つて当時の八年間ばかり(病気で休学したものも入れて)の大体の歴史なら何でも知っているわけで、入りたては裸体操にイワシのアタマ、それに理屈ぬきの教練。いやだつた空爆下の学徒動員。戦おわって戸田橋のイモ

島、ここで病を得て休学。復学しておどろいた変化に若い先生の時間を授業させずに二十の扉。自治会誕生。○×テスト、等々考えただけ



でもおかしな程の変りぶりだ。まさか入学の時、名こそかわれ、同じスタッフである文京高校の自治会議長に私がなろうとは誰が考えたろうか。さてこんなにあわただしい時代に今日の私の芽は当時生物の講師をされていた安立綱光先生によって植えつけられたのである。白髪の礼あつてい学者にふれてびたりと定ってしまった。以後今日まで虫を求めて一昔ノ所がここで気のつくことは、更に方向づけを促進させた因子に生物担当の石上先生の力があつたことだ。一口でいえば(先生は違うというかも知れないが)私にとってメフェイストフェレス的だったのかも知れない。その後、師運にめぐまれたことも幸であつた。そして今、私は豊島園の内に出来た昆虫館の主任をつとめている。これは昆虫学の師匠である古川晴男教授の命によるもので、設計から運営一斉を引きうけている。又昆虫の映画も作っている。でも、虫を食いものにするマス・コミとは凡そ正反對な地味な将来に静かにひたる事。これが私本来の姿だと信じている。

—— 26年卒 ——

ヤキキヤバ見学記

佐々木 卓

私は先日生れて始めて「ヤキトリキャバレー」なる所へはいった。メンバーは四人、全部文京の同期生だ。百戦練磨のK、学生結婚のM真面目一方で教員志望のH、それと私いつもは麻雀仲間でありダベリ仲間の我々が飲もうと云うのだから始めから少しおかしかったに違いない。

「いらっしやい、すぐショウが始まります」と云う客引の声につられ

て、ビール一七〇円の看板を確めてはいる。

その日の三時半に来たばかりだと自称する推定年令廿五の女が一人酌をしながら座り込む、女と勘定はKの係りで我々はそのやりとりを聞きながら枝豆をつまんだ。

数学が得意であのバクさんに賞められた事もある男がその女に云うには

「おいねえちゃん、ショーはいつ始るの」

「あたい今日来たばかりだもん、知らない」

「ふーん、ねえちゃんやるんじゃないの」

「あたいは一人にしか見せないの」

横からMが口を出す。

「そんなやせてるんじゃないヤスケルトンダンスでも見た方がいいや」

Mは女房持ちだから女の気嫌は取らないらしい、もっともそれが彼の手かも知れぬが。

しかし驚いた事に女には英語が通じた。

「あらあたいそんなにやせてないよう、ホラ見てごらん」

と胸を張って

「ガイコツにはこんなもんじゃないよ」

女が今度は反撃した。

「あんたたち英語知ってるんなら聞きたい事があるんだけど」

「英語ならこの人だ」

Kは逃げて私を指した。後の二人はドイツ語だ、フランス語だと威張ったが女はとり合わずにこう云った。

「英語で上の人にあいさつするとき何んて云うの、ハウアユーでなく
」

これには私も驚いて

「ハウアユー、でいいだろう」

ととっさに云ったが女は実に達者な発音で英語のあいさつを二つあげて（と云うのは酔と共にそれを忘れてしまったのだが）

「どっちがいいだろう」

と突っ込んで来る。その時Kが云った。

「イギリスではハウアユーさ」

女は解った様で解らない様な顔で黙った。

私は先にKを百戦練磨と云ったが、一足先に大学を出た彼の威力は將にその通りであった。

結局六本のビールを呑み、最後には空コップでショウを見たがこう云う経験の少ないHが熱心に観た位で格別面白くも何んともなかった。心配した会計も千円札一枚でオツリが来て我々の見学は終わった。

大人になると云う事は面白い事ですね。

——28年卒——

(14頁より)

なれとの目標を示して居りますが勿論これは間違つて居ないと思いません。然し登山は成るべく高く成る可く険しい山が望ましい。その山が高ければ高い程険しければ険しい程その頂上をきわめるには苦勞困難が多い。然し頂上征服すればその眺めとその愉快も亦大きい。これが全く人生である。

皆さん高知という所は仲々僻地です。それだけ又変つて面白い所もあります。酒と魚はとても善いがあります。竜河洞という、乳洞だけは是非一度見て戴き度い。酒と魚と竜河洞だけはいつでも御案内致します。

文京生見たまゝ

細谷義昭

入学後間もない女生徒、あまり成績が悪いので、放課後呼び出した担任がおもむろに原因をたづねると彼女曰く、「だって恋愛してるんですもん……」と涼しい顔をして答えたとか……。まあそれはともかく、毎年入学し、卒業して行く生徒をみているといろ／＼考えさせられる面が多い。

ものゝ見方、考え方などが年々変わって行く。俺はまだ若い、だから若い者の気持は良くわかる、などと云っていても、それは結局ひとりよがりな自己判断でしかない場合が多い。

母校にある一卒業生と云う立場から現役の諸君を観察してみると、たしかに変わったな、と云う感じが一入である。

それが良いことなのか悪いことなのか、自分にはよくわからない。たゞ云えることは、あまり好ましくない面が多くなってきている、と云うことである。

成程、入学者の平均得点は毎年向上してきてはいる。だが、在学中のクラブ活動、進学状況は遺憾乍ら年々低下の一路をたどっている。

校内の雑誌、新聞等をもても、全く出鱈目、誤字誤植はまだいゝ方、まるで文章になっていない。

礼儀をわきまえない。ポケットに手をつっ込んで友達に話すと同様の口をきく。ある部では自分達で自主的に練習するから、と云って可能な先輩の指導を断った者がいたとか。

応用の利かないたゞ詰めこむだけの勉強法。それが毎年の進学率低下となって現れる。ファイトがない。あまりにもアッサリと自己の限界を認識してしまふ……等々。

どうも悪口ばかり並べたてゝ了って恐縮だが、いずれにしても勉強の内外を問わず、いわゆる「文京生の質」が年々低下してきていることは争えない事実である。何が彼等をそうさせたのか、原因は種々あろうが、そのどれ一つとして自分を満足させ得るものはない。たゞこれが文京高校生であるとして世に問い得る者の一人でも多く出でんことを祈るのみである。

— 28年卒 —

三遊亭金遊氏入会

落語家の三遊亭金遊こと関根尚雄君がこのほど正式に本会に入会した。彼の才能は在学中すでに円遊師匠に認められ、三十年三月、二年を終えたところでスカウトされたもの。昨年の総会の折に出演、喝采を博したが、これで同窓会にも名物男が一人ふえたことになる。

(住所豊島区西巢鴨二の二八七五、(97)五七九五)

折目さんご逝去

新校舎が出来て大塚に復帰以来本校警備の任にあたっておられた折目さんが、一年余の闘病生活も空しく去る九月五日、不帰の途につかれた。在職中に世話を焼かせた経験は誰にでも一度や二度はある筈、暇な折には是非菩提を弔っていたらきたい。

歩いてかけて見た記

文化祭は真白なコースラインを校庭に十一日催された。人工衛星からはじまり終りは劇「薯のにえるまで」中のおんこはお茶に花（五期若林さんの手ほどきを受けた）鳩の解剖、液体の花、絵画（OBの作品もあった）写真に天国と地獄、佐渡金鉱の紹介、中近東動乱の話で僕の頭をこんがらし、×十大塚中学校の運動会……。卒業生諸兄姉も多数おいでになり後の方で椅子の上にお立ちになってご観劇、あいつも変らず？がとぶこととぶこと、でも椅子をギシギシきまして笑っていた。展らん、発表の方にはやはりなじめないのか、書道の室では僕ひとりだった。おかげさまでゆっくり観賞できた。

体育祭は十三日、予報では曇だったが不断のおこないがよかったのか晴天。主人公レースでは僕もかり出されてドンホセ、連れのカルメンが居らず。浮気者なんだ、彼女は。やっぱり。審判員のあやまるこ



写真説明 上から演劇・主人公レース・華道班。

とあやまること。卒業生レースでは多くの諸兄姉が参加されてスプリンレース。八期の紳士は淑女を、ゴール寸前に待って淑女をゴールインさせてからゴールに入るなど、仲々レディファーストぶりをみせ、やん／＼の喝采を得た。奥田先生をはじめ諸先生など大いによるこんでくれた。真赤な夕陽が西のビルのかげに沈む頃、ウクレレをひく腰にざる、胸に手製の乳房をつけた土人や、揃いの佐渡おけき、三悪追放（反男クラス・無白線、無試験）のオシャモジ（？）デモなどの仮装行列、全校生徒諸君のフォークダンスが終って秋の長夜に入った。

——30年卒——（皆 葉 賢）

卒業記念文庫の設立

今年四月から図書館の一角に「卒業記念文庫」と命名される蔵書がお目みえした。これは三十一年度第九期卒業生（学年主任川井先生）により考案されたものだが現蔵書数はざっと四十冊あまり。初めは六十冊近くあったと話。設置される準備のためには今年度進学就職と難関を突破したものの各人が一冊以上、後輩の学力増進の意味と母校の誇りとを表す意味で寄贈していった貴重な記念品である。結局この蔵書が春を迎える毎に多くなってゆくことは学校の発展を明るく表す対照物ともなってくる。

二十八年卒松本素直君留学

松本君はある幸運を握み、彼と家族の方の努力によって三十年十二月に米國テネシー州立タスカラム大学に留学、弱電気の勉強にいそむ。彼とはテープレコーダの往復により肉声を持って話し合うこと三度、都庁労働局の部長が渡米の際ニューヨーク案内をつとめるなど健在なり。

プール建設決定

——大塚中学校の移転に伴い

各種体育施設も実現か——

昨年の図書館体育館の完成等母校ではPTAを中心としてここ数年来教育施設の完備にとみに力を注いでいるが、来年度には愈々永年の願望であったプールが建設される運びとなった。なお、本校敷地内にある大塚中学の移転に伴い校地返還諸設備の利用方法を目下各方面に交渉中なので無事交渉妥結の暁には大幅な設備充実が見込まれている。

プール建設。中央児童相談所と大塚中学校との間現在の中学のバレーコート的位置に25×15m6コースで1mの飛込台をつけ地上2mの高さで作られる。経費は四〇〇万で来年三月着工五月完成の予定。管理、脱衣室等は中学の校舎を利用の関係もあるので第二期工事として後廻となったが、その昔教育大学プールを二コース借りていた当時から考えるとまことに隔世の感が深い。

体育施設拡充。バレー・バスケット・テニスコート各二面増設。他に教室を利用して柔道、剣道、卓球、舞踊室等に使用したい意向なのでこれが完成されると体育施設としては都内随一のものとなるがこれは各方面の今後の接衝にまつわけであるが我々もその実現の一日も早からんことを祈りたい。



(H)

消息不明者欄

左の方々の消息がわかりません。御存知の方は御一報ください。なお、住所、氏名、勤務先等に異動のあった際は直ちに御連絡ください。葉書でも電話でも結構です。宛先は文京高校同窓会、電話は(97)五〇二九番です。(編集部)

豊島中学校の部

期組	氏名	期組	氏名
一 A	荒木麟太郎	一 B	土屋多加志
池田洋太郎	飯村起伸(方治)	二 B	久川隆司
勝山和男	茅根信夫	三 B	北田竜夫
服部昭二	豊田進	四 B	上田久
服部昭二	服部昭二	五 B	阿部久英
服部昭二	服部昭二	六 B	渡辺邦緒
服部昭二	服部昭二	七 B	真野兼昭
服部昭二	服部昭二	八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	二九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	三九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	四九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	五九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	六九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	七九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	八九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九〇 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九一 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九二 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九三 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九四 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九五 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九六 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九七 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九八 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	九九 B	服部昭二
服部昭二	服部昭二	一〇〇 B	服部昭二

(8) 柴田善夫 目黒区下目黒四の九五五
青木勝男 文京区宮下町七 溝田方
小林一夫 旧姓石垣 石垣方

岩淵忠夫 宮城県仙台市原の町南目谷地館一八五 東北
管区警備課

影山昭次 川崎市木月伊口町二一四八
川中照治 豊島区千早町四の三五 川中医院
坂井昭三 浜松市名残町二七 静岡大浜松分校
四宮 函 杉世区松の木町

(9) 高梨均 世田谷区船橋町一一一
野村総一郎 横滨市西区老松町二一
浜名政昭 杉並区高円寺一〇四二

柳沢茂 世田谷区世田谷五の三三六二
吉田和夫 神奈川県横須賀市 荒巻松風寮
若林義郎 杉並区東田町二の二一九

(10) 中川英雄 千代田区神田神保町一の六七
岩本 厳 旧姓長谷川 文京区武島町五
平川正純 世田谷区玉川等々力一の二二
柳沢融 盛岡市下小路六六 小泉イク方

(11) 吉岡昭彦 大分県東国崎園見町大字向田三八三
千葉胤彦 自宅練馬区上石神井一の三八一
森 啓 豊島区長崎二の一七

(12) 木本正二 大阪市東区備後町一の二五
秋山一穂 大阪市住吉町一の五の一 杉英荘内
阿部喜一 大田区山王二の一八五〇 NHK大森寮

岡村辰夫 文京区駒込神明町一一二
木田京平 水戸市上町
木野村秀夫 豊島区池袋二の九三五

(13) 湖山聖道 板橋区板橋町四の一四九九
堅山欽二 大宮市西本郷一八一
福本道夫 荒川区尾久四の一八五〇

(14) 山崎春二 山口県美祿市豊田前町麻布四
佐藤幸夫 豊島区堀之内二八
杉並区阿佐谷一の八三七 山根方、江戸川
務所

(15) 神崎善三郎 千代田区神保町三の二、江戸川税務所
北川宏 品川区大井出石五一五八、国際電気(株)
赤坂正雄 中央区銀座西二の一、東洋汽船(株)
小林敏男 浦和市上木崎五一九
中田邦男 浦和市常盤町七の一六四

(16) 中村直樹 渋谷区長谷町四六 川路方
森崎益夫 練馬区東大泉八一五 (99)七三九三
横田忠郎 北区田端町四八〇

(17) 岸野健一 平塚市諏訪町一四四九
森田和浩 文京区金富町三四

浜田昭三 横滨市戸塚区瀬谷町日本住宅公団アパート一
九三号

飯塚忠昭 飯坂忠昭
潮田与志夫 茨城県下妻市西木町
遠藤義信 板橋区蓮根町三の三

- (18) 橋本嘉典 板橋区茂呂町一五六
 阪本英一 大田区池上本町二五四
 福沢光姓 北区上中里一の三
- (19) 本多豊 中野区向台町七 赤池方
 島田愼平 中野区新井町一〇三
 荻野実 豊島区長崎一の九九六
 白崎英吉 北区豊島八の二一
 草間(阿部)三雄 豊島区千川一の七
- (20) 岸野茂雄 神奈川県平塚市諏訪町一、四四九
 黒沢亮一 豊島区池袋二の九四一
 山本正彦 仙台市北三番丁七五の一 青葉寮
 (21) 細田純正 中野区永川町二二
 (24) 静谷晴夫 電(98)九八五六
 (24) 佐藤寛二 北区赤羽五の一六一〇関根方
 (24) 鈴木喜興光 渋谷区千駄ヶ谷一の三四七 電(40)五〇四〇
 (24) 高橋昌平 豊島区巢鴨七の一六九四
 (27) 森理 豊島区要町一の六
 (28) 中村隆男 杉並区高円寺七の九六四
 (28) 宮内崇信 新宿区戸塚一の四九八の三
 (31) 川口栄八 杉並区西田町一の五一一
 (31) 篠宮和也 大宮市堀之内二の一〇五
 (31) 須藤幸之助 仙台市北七番丁一〇八 土谷方
- (36) 西尾嘉剛 市工場
 (36) 武田忠男 兵庫県姫路市広畑富士製鉄岳水寮
 (36) 三重県四日市市千歳町二日本板硝子KK四日
- (41) 佐藤和夫 大阪市東区本町三の三九紅飯田KK機械部電
 気機械課
 新倉健雄 豊島区池袋町三の一四八〇
 (42) 小西隆夫 川崎市上平間九七七の一〇II
 (43) 江黒省二 札幌市北十条西四丁目北新寮内
 (43) 大田住男 三鷹市下連雀二二
 (45) 宮村佳伸 北区岸町二の一
 (45) 結城美子 宮城県紫田郡船岡町自衛隊三六三 無線隊
 (45) 菅生義宏 文京区駒込林町七七
 (45) 友成高明 杉並区上高井戸二の四七三、堂守方
 (45) 松本素直 中野区野方町二の一六一五
 (45) 賀陽武子 横浜市金沢区富岡町一二二六
 (46) 坂見智恵子 文京区駒込林町七七
 (46) 友成(島村)和子 若林百合子
 (47) 若林道代 杉並区高円寺七の九六四
 (47) 菅原圭子 目黒区中根町二一〇
 (47) 神永明弥 福岡県八幡市高見町六の七〇〇 八幡製鉄高見寮
- (51) 中山貴美子 杉並区高円寺三の二七六 日産高円寺寮内
 (52) 大野良信 大熊良信
 (52) 新田守 板橋区板橋町三丁目
 (55) 野村武彦 文京区初音町一五 高堀純夫方
 (56) 川村きみ子 新宿区市ヶ谷加賀町一の二
 (56) 永井道子 板橋区志村清水町二〇三

(67) (65) (62) (63) (64) (63) (68) (67) (66) (63) (60) 59 58 57
 三井 具志 谷口 坂巻 松本 木村 大森 山本 早崎 大森 北沢 渡辺 村岡 市園 石川 和田 土屋 木庭 松岡 樋口 霜田 夷岡
 俊勇 勝 蕃 和 子 美 典 幸 賢 子 代 伸 夫 保 子 子 二 勝 弘 彦
 霜田芳宏

札幌市鉄道弘済会札幌学生寮
 板橋区板橋町八の二一九七
 品川区西戸越一の九一五 矢崎方
 木庭歌子
 北区滝野川四の一の一五
 杉並区高円寺七の八八八
 板橋区志村蓮根町一の三四の一七
 文京区小日向台町一〇二八
 杉並区方南町一六一
 中野区多田町四五
 北区堀船町三の四三
 板橋区志村蓮根町一の三四
 北区堀船町三の二六 電(91)〇三五五
 杉並区高円寺二の九二 電(38)四〇六一
 北多摩郡久留米町小山三三三
 徳島市中徳島町三丁目県公舎
 館山市北条一七八九 国税局館山税務署内
 (法人税係)
 北多摩郡小金井一六六四
 埼玉県北足立郡美園村大字大門 大門中学校
 内
 武蔵野市西窪一七三
 文京区大塚仲町三六

会計報告

昨年は新規約にのっとり会計を担当いたしました。幸い同窓生有志の方の御協力を頂き大過なく終りましたことを感謝いたしております。収支、財産は別表の通りです。利子で運営できるまで今後とも皆様の御協力を良ろしくお願いいたします。

昭和 32 年会計報告書 (昭31.4.1~昭32.3.31)

会計委員	西岡 弘	
監 査	小島義郎	須永 昭
1. 収支計算書	B 支出の部	
A 収入の部	総会、会報	75,014
前期繰越金	通信費	1,783
入金会々	委員会費	7,386
総寄利	事業費	2,260
その他の	事務費	3,000
	その他	2,300
計	計	91,743円
2. 財産目録 (昭 32, 3, 31)		
住友貸付信託	80,000	現金 134,659
C 差 引	214,659円	

(17頁より)

く気になったかと云いますと、先日、ふとしたことで元町の小学校へ行く機会がありましたので、急に昔のことがなつかしくなってきたからです。今では全く、新しくなって、地下足袋のあとなど全然ありませんでした。すべては夢だったのかも知れません。子供の目にうつって消えた、小さな夢の出来事だったかも知れません。しかし皆であやまりに行った時に一人だけ逃げて了った事が爰に悲しく、悪いことをしたように思われます。皆さん、ゴメンなさい！ (27年卒)

編集後記

◇今日も鯨雲が浮んでいる。いわし、よく鱈の頭を食べさせられた市立三中時代の懐しい奥田校長はじめ、川島、芹沢、松本、山川、佐々木、阿部、照屋、田崎、長谷川、黒岩の諸先生の原稿を拝見していると苦しかった、楽しかった頃が思い出される。

◇今号から体裁が変わってA5判となりました。幸い医学書院の長谷部君（二七年卒）と云う専門家を編集陣に加える事が出来たので、立派なものが出る事と自負しております。編集子諸君皆張切って編集に参加して下さい。（菊池生）
◇本号発行に際し、一期の川上さん（八洲印刷KK）に用紙、製版代の寄付を、また印刷に当たっても多大の御尽力をいただいた。紙上厚く御礼申上げる次第である。
◇題字は奥田校長に頂いた。会報名は議論百出の挙句、紫筍（シジユン）に落着いたが、これは「同

窓会報」の副題として毎号かえて行きたいと思っている。なお、表紙は八期の深瀬君の力作である。本号、同窓会等に対する忌憚ない批判を仰ぎたい。終りに菊池編集長の早期回復を祈る。（細谷生）

◇卒業以来女子では私が一番学校に近いせい、何かと同窓会の方へも引張り出されてしまう。今度も編集という難役を仰せつかってしまったが、先輩、後輩と云うわけ隔てなく、始終和やかな雰囲気の中で編集が進められ色々良い想い出になりました。たゞ一つ、非常に残念に感じたことは、女子の協力の少なかったことで、今後こう云う機会にはおっくうがらず原稿を送ってほしいと思えました。（若林）

◇第一号発行の時は最年少であったが、今度は二学年先輩となったので、いさゝか榮が出来ました。編集長の菊地達長先輩が健康をそこねて入院され、お見えになれなかったことは残念でした。菊地さ

んをはじめ、病床にあられる諸兄姉の一日も速く、ご健康になられるようにお祈り致します。（皆葉）
◇お待たせしました。スクール・カラーが紫色とか、若竹のようにスクラスとあらゆる障害をつきやぶって、躍進するように、と云うので紫筍とつけられた次第です。てんやわんやで、大変なものになってしまいましたが、まあ御勘弁のほどを。（川田）

◇十号台風ではないが、ノラリクマリと進行して来た編集も、やっとならしい。編集に当った小生自身が「終つたらしい」等々、あいまいな言葉をはくのもどうかとは思いますが、とにかく一ヶ月半程遅れたのであるから、投稿者諸氏も氣をもまれた事であらう。「ドウモスマセンデシタ」

◇第二号も無事終った。編集委員に名を連ねた私は、編集なるものは全くの素人、当編集にも何ら役に立たなかった。だが、良い経験、勉強になった。一つ感じたことは、七期以後の同窓生の寄稿が少いことです。次号からは大いに協力下さい。（滝沢）

◇菊地先輩が健康を害し、その後任として参加したわけですが、私個人として雑用に追われていた際で、また経費の関係もあり諸兄姉の意図を反映した会報をお送り出来なかったことをお詫びします。編集に参加して、今後三号四号と毎年、文字どおり紫筍の如く生長してゆくためには是非とも全員の協力が必要であることを痛感しました。（長谷部）

紫 筍

文京高校同窓会報第二號
昭和32年12月15日 発行

発行
編集 文京高校同窓会編集部

印刷所 八洲印刷株式会社

